

## 統括 DMAT 研修に参加しました(2018/5/21-22)

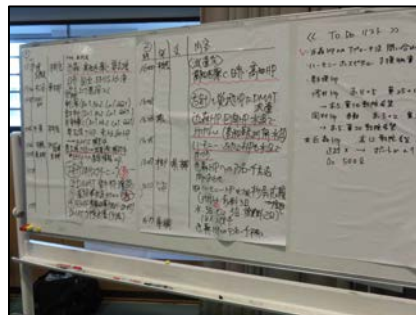
テーマ：統括 DMAT、災害派遣医療チーム (DMAT)  
場所：国立病院機構災害医療センター (東京都立川市)

2018年5月21日(月)～22日(火)の2日間、東京都立川市の国立病院機構災害医療センターにおいて平成30年度統括DMAT研修(厚生労働省主催)が開催され、佐々木宏之助教(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)が参加しました。DMAT(Disaster Medical Assistance Team、災害派遣医療チーム)は、災害時に被災者の生命を守るため現場に迅速に駆けつけ、救急医療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームで、阪神淡路大震災を契機に設立されました。1チームあたり4～5名で構成され迅速かつ小回りのきく活動が可能ですが、多数のチームが一つの目標に向かって組織的に活動するためには、各隊を取りまとめる役が必要で、それが統括DMATになります。災害時に県庁や活動拠点などに設置される医療本部は統括DMATを中心に構成され、その本部・所掌エリアの活動方針を決定します。統括DMATに付与されるIDには、「EMIS(広域災害救急医療情報システム)に本部の登録ができる(設置できる)」「医療機関情報を代行入力できる」「隊員への一斉連絡ができる」など、医療機関IDより大きな権限が与えられています。そのため、統括DMAT研修受講にあたっては所属組織からの推薦、県選考を経る必要があります。

研修では本部長・本部構成員となった際、本部立ち上げや活動実施中に留意すべき点について講義を受けます。「HeLP-SCREAM(助けてと叫ぶ)」:これは本部活動開始時に留意すべき点の頭文字を合わせたものでHello(カウンターパートへの挨拶)、Location(本部の場所の確保)、Part(初期本部人員の役割分担)、Safety(安全確認)、Communication(連絡手段の確保)、Report(上位本部への立ち上げ連絡)、Equipment(本部機材の確保)、Assessment(アセスメント)、METHANE(状況評価項目)といった具合になります。これ以外にも活動時期毎に「HeLP-DMAT」「REMEMBER」「THANK you」といった留意点があります。そして新潟県中越沖地震、東日本大震災、熊本地震などの事例検討、机上演習を行った後、最後に活動拠点本部運営実習を行いました。南海トラフ地震を想定し、高知県・徳島県の活動拠点本部(災害拠点病院内に設置)に派遣された統括DMATとして本部運営を行う、というシナリオを訓練しました。見知らぬ者同士の顔合わせ、役割分担に始まり、次々と舞い込んでくる困難なイベントへの対応、大声の飛び交う緊迫した状況に、佐々木助教はチームリーダーとして派遣された熊本地震の益城町役場の様子を思い浮かべました。2日間の研修を修了し、全国から集まった120名の受講者が新たに統括DMATとして登録されました。研修修了の証として「DMAT本部」幟旗が授与されました。

統括DMATは平時においても、地域の災害医療コーディネーターとして活動することが要項内で求められています。平時における災害に強い医療体制構築・訓練、有事における本部活動では当研究所の知見が活用できる場面も多く、佐々木助教は実践的防災学を標榜する災害研と災害医療との橋渡しを今後も推進していく予定です。

HeLP-DMAT (助けてDMAT) DMAT本部活動中	
• Hello	参集DMATの登録
• Liaison	他機関現地本部との連携(DMAT連絡要員の派遣)
• Plan	作戦の立案と共有
• Direction	DMATへの指示、役割付与
• METHANE	被災情報の収集とその共有
• Allocation	派遣、他救護班の状況に応じた配分 and Another Team
• Transceiver and Transport	各部署との連絡体制 搬送体制の確立



(左；統括DMATの任務「HeLP-DMAT」、中；佐々木助教が担当した本部運営実習クロノロ、右；授与されたDMAT本部幟旗)